

情報通信審議会情報通信技術分科会
衛星通信システム委員会（第14回）会合 議事要旨

- 1 日時
平成21年3月25日（水）15時30分から16時40分
- 2 場所
総務省11階 11階会議室
- 3 出席者（敬称略、順不同）
 - (1) 構成員
大森 慎吾（主査）、遠藤 信博、尾上 誠蔵（代理：古川 憲志）、河合 宣行（代理：渡辺 誠二）、川口 さち子、佐藤 祐子、篠塚 隆、高橋 和子、徳永 恭子、西尾 裕一郎（代理：安藤 清武）、本多 美雄、正村 達郎、三浦 佳子、室田 和昭、若尾 正義（代理：岡田 裕二）
 - (2) 説明者
鈴木 龍太郎、田中 靖人、山本 勝美
 - (3) オブザーバ
高度通信振興課 小津推進官
 - (4) 事務局
衛星移動通信課 鳥巢課長、新田企画官、永田課長補佐、吉田係長、田野係長
- 4 議事概要
議事に先立ち、説明者の紹介、衛星移動通信課長挨拶、資料配付の確認が行われた後、以下の議題について審議が行われた。
 - (1) Ku 帯 VSAT システムの高度化に関する技術的条件について
鈴木説明者から資料14-1に基づき「IV審議概要」の「1.審議の背景」まで説明があり、続いて安藤代理、山本説明者から説明が行われた後、以下の質疑応答があった。
 - VSAT 地球局の設置場所付近に、将来的に固定局が設置された場合の被干渉対策として、アンテナ移動等する必要があるが、運用上対応できるのか。
 - 固定局側から事前に開設の連絡をもらえれば、事前にアンテナ移動または周波数変更を行い、事後的なユーザーからの申告の場合は、取り急ぎ周波数変更の対策を行うので問題ない。
 - 将来的に仰角が低い衛星が出てくる可能性があるが。
 - 頻度は増えるかもしれないが、今回検討したアンテナ移動もしくは周波数変更により対応可能。
 - CI-OFDM は、今回の検討の必須要件なのか。
 - 衛星通信において OFDM のニーズが高まっている昨今の状況を踏まえ、一例として紹介したもの。
 - 現行法令上、変調方式が周波数変調及び位相変調のみに限定されているため、今回の技術的条件の検討において、高度化のための検討の一つとして紹介した

ものという理解でよいか。

○ その通り。

(5) 今後のスケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて説明が行われ、報告書案について委員会での指摘事項を反映した上で、メール等による審議を行った後、パブリックコメントの手続を進めることとされた。

また、パブリックコメントの結果を受けて、必要に応じて作業班を開催した後、委員会を開催して最終的な承認が得られた後、情報通信技術分科会において主査からご報告いただく予定である旨説明があった。

<配付資料>

資料 14-1 Ku 帯 VSAT 高度化作業班報告書

資料 14-2 今後のスケジュール

参考 14-1 衛星通信システム委員会（第 13 回）会合 議事要旨